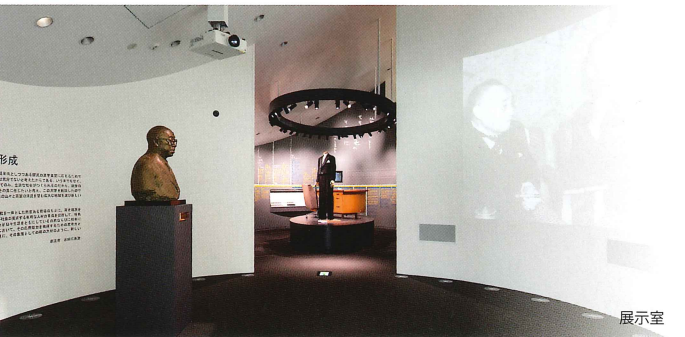




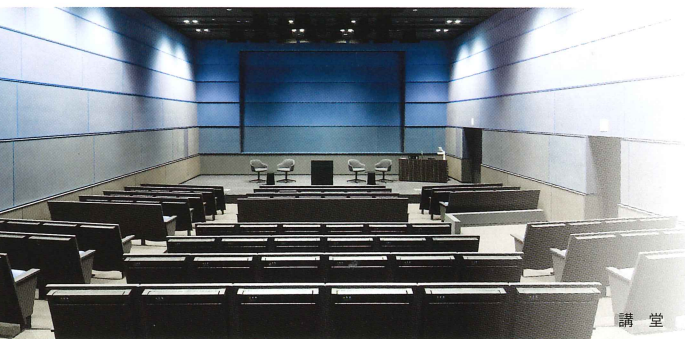
記念館入口



記念館南側



展示室



講堂

創立者水田三喜男 略年譜

明治38年 4月13日	千葉県安房郡曾呂村に出生
大正元年 4月	曾呂村尋常小学校入学
大正13年 3月	千葉県立安房中学校卒業
昭和6年 3月	旧制水戸高等学校を経て京都帝国大学法学部卒業
昭和21年 4月10日	第22回衆議院選挙で自由党から出馬、初当選
昭和27年 1月23日	自由党政調会長
昭和30年 11月15日	自由民主党結成、初代政調会長
昭和31年 12月23日	石橋内閣、通産大臣
昭和32年 2月25日	岸内閣、通産大臣
昭和35年 7月19日	第1次池田内閣、大蔵大臣
昭和35年 12月8日	第2次池田内閣、大蔵大臣
昭和40年 1月25日	城西大学創立、初代理事長
昭和40年 4月20日	城西大学開学式、初代学長(理事長兼務)
昭和41年 7月29日	自民党政調会長
昭和41年 12月3日	第1次佐藤内閣、大蔵大臣
昭和42年 2月17日	第2次佐藤内閣、大蔵大臣
昭和45年 1月10日	自民党政調会長
昭和46年 7月5日	第3次佐藤内閣、大蔵大臣
昭和47年 1月5日	日米首脳会議 (佐藤栄作首相、水田三喜男蔵相、 福田赳夫外相、田中角栄通産相)
昭和51年 4月29日	勲一等旭日大綬章叙勲
昭和51年 12月22日	病氣にて急逝、享年71歳、従二位に叙位される

交通アクセス

- 1 | 池袋、川越方面より東武東上線坂戸駅乗り換え、東武越生線川角駅下車、徒歩10分。
- 2 | 八王子、高崎方面から八高線を利用される方は、越生駅で東武越生線に乗り換え、川角駅下車で来学するのが便利です。
- 3 | 関越自動車道鶴ヶ島インターより20分。

水田三喜男記念館

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1
 TEL | 049-271-7712 FAX | 049-271-7947
 URL | <http://www.josai.ac.jp>



水田三喜男 記念館

MIKIO
MIZUTA
MEMORIAL
HALL

学校法人 城西大学

城西大学の創立者の水田三喜男(1905～1976)は、政治家として戦後復興に力を注ぎ、経済成長・日本の国際社会での地位向上を実現させました。

教育振興にも努め、建学の精神「学問による人間形成」の理念は、いまもキャンパスに息づいています。

城西大学は、創立50周年を記念し、その業績や人間性を後世に、広く伝えるために創立者記念館を建設しました。

また、当館には、本学創立の背景となる、創立者の「足跡と生涯」が展示されています。

学校法人城西大学創立50周年記念

水田三喜男記念館開設にあたって

1965年開学した学校法人城西大学は、2015年創立50周年を迎えました。私どもでは、創立50周年を記念し、本学創立者水田三喜男先生の人間としての足跡を丹念にたどり、その哲学と理念を共有し、50年を経た本学のさらなる発展の礎としてまいりたいと考え、準備委員会を立ち上げ、同窓会と力を合わせ、創立者水田三喜男記念館を開設することといたしました。

創立者は、千葉県曾呂村において、拔きんでて勉強が好きな少年として育ち、安房中学、水戸高校から、京都帝国大学に進学、その後政治家として国政に携わり、戦後の日本の復興にきわめて大きな貢献をされました。一生を通じて、故郷への思いは変わることはなく、さらに教育への熱い思いから城西大学を創立されたことが記念室の展示資料によってご理解いただけたと思います。

この展示にあたり、学内においてもいろいろな資料の発掘をいたしました。大学の歴史を振り返り、あらためて創立者のあたたかで高潔なお人柄に触れることができましたことは、準備委員会メンバー一同にとりましても大きな喜びでした。

開設にあたり、鴨川市郷土資料館をはじめ、毎日新聞社、そのほか多くのみなさまのお力添えをいただき、大変貴重な資料も展示することができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

城西大学同窓会
学校法人城西大学創立50周年記念
創立者水田三喜男記念館準備委員会
2017年3月

創立者 水田三喜男について

「学問による人間形成」

水田三喜男は、1905年(明治38年)4月13日、千葉県安房郡曾呂村(現在の鴨川市)に生まれた。安房中学から旧制水戸高校、京都帝大と進む間、地元の小学校で代用教員を経験。「この時以来、いつの日か再び教育に携わりたい」との希望をもった水田は、その後、東京市職員として勤務しながら専修大学の講師を務めた。また、戦後、新憲法の下での第一回総選挙で42歳で衆議院議員に選出され、戦後歴代内閣の大蔵大臣、あるいは自民党政調会長として「経済・財政の水田」とうたわれるようになってからは、義務教育費の国庫負担、文教施設費国庫負担、私学助成等に尽力、戦後日本の教育振興に情熱を傾け、「教育の水田」の真価を発揮した。1965



学生と語る「教育の水田」

年(昭和40年)4月、「現代および後世のために、国家社会建設の重責に耐えられる人材育成の場」として、埼玉県・高麗川のほとりに城西大学を創立した。「日本の若い人々は、これから国際社会で尊敬される人間にならなければならない」という、日ごろの宿願を果たさんがためであった。

「戦後の復興と経済成長の担い手」

1946年(昭和21年)4月10日、戦後初めての衆議院選挙が実施された。戦争に負けた祖国の姿に、「何とか早く経済を立て直し、国民生活の安定を図り、独立を回復する仕事に一身を打ち込みたい」とこの選挙に出馬した水田三喜男は、以来、連続当選13回。30年10カ月の長きにわたって国会議員として活躍した。経済審議庁長官(吉田内閣)、通産大臣(石橋、岸内閣)、大蔵大臣(池田、佐藤内閣で7回)など経済閣僚を歴任し、さらに与党の政策形成・決定に全責任を負う政務調査会長(自由党2回、自民党5回)の立場からも、1950～70年代の経済財政政策に全力を注いだ。欠いで世界中が注目した日本の飛躍的経済成長達成を身をもって推進し、今日に至る国際的地位の向上に努めた。また、1971年8月に起きた米国の金ドル交換停止、円切り上げは、戦後の日本を代表する大蔵大臣としての正念場であったが、適切な決断と政策で、よくその危機を乗り切った。



大蔵大臣に就任

池田内閣に大蔵大臣として初入閣

1960年(昭和35年)7月19日、池田勇人内閣が誕生し、初めて大蔵大臣として入閣。1961年度の予算編成は減税、社会保障、公共事業、そして教育を4本柱とする積極型となり、所得倍増計画、経済高度成長政策がスタートした。



蔵相会議

ロンドン10ヵ国蔵相会議出席
(1971年9月)



円切り上げ

切り上げを報道する当時の新聞

1971年(昭和46年)12月17日、ワシントンのスミソニアン博物館で10ヵ国蔵相会議開催。戦後20年間にわたって、1ドル360円に固定されていた円レートは、16.88%切り上げられ308円となった。



政党人として

政調会長を7回務めた「党人政治家」



勲一等旭日大綬章を受賞



永年在職議員として表彰

衆議院本会議で万場の拍手を受ける

衆議院は昭和46年3月2日、終生政党人の立場を貫いた水田を永年在職議員として表彰。



「郷土と人間愛」

房総に生まれ、成長し、やがて日本の将来と民族の歩むべき道をこの土地で思索した水田三喜男は、後年、「暖かき安房と上総の情けもて わが辿り来し 今日を謝すべく」との歌に託して房州の暖かい人情と郷党の恩義を謝した。自ら身边をきれいにし、辺幅を飾らず、野人的な風貌のなかで物事を深く考え、困難に面しても常に飄々として柔軟な姿勢でことに処した水田の人間性に、郷里の人々は大きな信頼を寄せ、長きにわたって心から支援を送った。若いころから和歌や俳句に親しんだ豊かな感受性と、浮世絵収集から囲碁におよぶ広範な趣味、人間性溢れる人柄は多くの人々に愛されたが、病のため1976年(昭和51年)暮、不帰の客となった。衆議院は翌年、追悼演説のなかで「練達の政党政治家であり屈指の財政経済の指導者」とその功績をたたえ、故人の遺徳を顕彰した。



復元された水田三喜男生家